廿日市市立佐伯中学校　令和5年度

【自 律】学 校 だ よ り

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http:// www.hatsukaichi-edu.jp/saiki-j/

学校教育目標：「夢や目標に挑戦し，自己実現を図る生徒の育成」

5月号（№2）
令和5年
5月2日（火）

４月が終わり，５月が始まる

【4月に授業を参観して感じたこと】

校長先生は，出張等の日を除いて，大抵2時間目に全学級の授業を参観しています。

いきいき学級やのびのび学級では，先生とマンツーマンで授業を受けていました。数学の授業では，疑問があれば納得するまで先生とやりとりをしていました。

１年生は国語の書写（硬筆）の時間でした。先生からのアドバイスを受けながら，姿勢よく集中して取り組んでいました。

２年生は社会の時間でした。食料自給率について，各自が自分の考えをプリントに書き込んでいました。その後，積極的に発表している姿が印象的でした。

３年生は英語の授業でした。ALT の先生が，自己紹介も兼ねて生徒に質問をして，それに答える形でしたが，みんなコミュニケーションを楽しんでいました。数学の授業では，因数分解の説明を真剣に聴いている姿が見られ，顔つきが受験生になっている感じがしました。

どの生徒も，進級を機に，心機一転頑張ろうとする姿が見え，とても嬉しい気持ちになりました。

【学校暮会で話したこと】

「勉強よりも大切なものがある。」という話をしました。勉強なんかしなくていいという訳ではありません。言うまでもなく勉強は大切です。それよりも大切なものがあるという話でした。

お金？家族？など，思い浮かんだ生徒もいた事と思います。もちろんそれらも大切ですが，この日に伝えたかったことは，「ありがとう」と「ごめんなさい」という2つの言葉です。

皆さんは，この2つの言葉を普段から素直に言えていますか。消しゴムを拾ってもらった，部活でボールを返してもらった，忘れ物して先生に理由を聞かれた・・・いろんな場面がありますが，自分自身を振り返ってみてください。自然に「ありがとう」や「ごめんなさい」が言えているでしょうか。特に「ごめんなさい」は出にくいですね。言い訳が先に浮かびませんか。言い訳してその場を乗り切ることに全力を出していませんか。そこにはエネルギーを費やす必要はありません。

中学生の時は，友達関係がうまくいかなくて悩むことが多い時期です。これら2つの言葉を普段から素直に言えると，ずいぶん楽になれると思います。

「いのちの大切さについて考える日」

今から10年前の平成25年5月8日，廿日市市内の中学3年生徒が自ら命を絶つという，大変悲しい，痛ましい出来事が起こりました。このような痛ましい出来事を繰り返さないために，廿日市市では翌年の平成26年から，5月8日を「いのちの大切さについて考える日」として，市内の全ての小・中学校で，命の大切さについて考える取組を行っています。

これまで佐伯中学校では，生徒会を中心に，「いのちの大切さを考える全校集会」を行ったり，「いのちの大切さを考える道徳の授業」を行ったりしてきました。今年は5月8日（月）に，各学年で道徳の授業を行い，「いじめは絶対に許されないこと」や「自分や他人の命を大切にすること」などについて，深く考えていきます。

ぜひ，GW中に家族で「いじめ」について，じっくり話し合ってほしいと思います。

【いじめについて，心に刻んでほしい3つのこと】

1 「いじめは絶対に許さない」

佐伯中学校は，どんな小さないじめも許しません。

2 「自分や他人の命を大切にする」

いじめによって自分や他人の命が脅かされることがあってはなりません。そのためにも人を思いやり，認め合うことの大切さについて考え，行動してください。

3 「一人で抱え込まず，相談する」

いじめによって辛い思いをすることがないように，また，一人で抱え込むことがないように，話しやすい人に必ず相談してください。受けとめてくれる人が必ずいます。

※ 本校には，心の悩みを相談することができるスクールカウンセラーの桐原先生と，生活の中で抱えている様々な問題の解決を図る福祉の専門家のスクールソーシャルワーカーの阿部先生が，ほぼ毎週火曜日に在校しています。

※ 相談したい生徒や保護者の方は，遠慮なく，次の相談窓口の先生にご相談ください。

体罰・セクシャルハラスメント及びいじめ等の相談窓口　（0829）72－1145

森川晴行教頭先生　生徒指導主事：秋田智恵先生

特別支援コーディネーター：高浜のぞみ先生　養護教諭：小田敦子先生

＜気になることがありましたら，いつでもご相談ください。＞

GW中，緊急連絡がある場合は，廿日市市役所（代表）〔（0829）20―0001〕にご連絡ください。